

あむーる

島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年6月6日発行
第7号

先輩は語る

No.7



僕の場合とおすすめ

東京大学 理科Ⅲ類 渡部 竜成

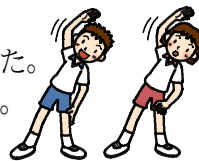
松江北高での3年間のうち、僕が最も勉強に力を入れていたのは最初と最後の半年間でした。最後の半年間は受験前だから当然として、最初の半年間というのは、結果的に僕の学習面での成功の全ての理由であったように思います。というのも、勉強は一度波にのってしまえば後はそれほど苦労しないでもよくなるからです。そして、波にのる時期は当然早い方がよいのです。

波にのるとは、具体的にはそれまでに習ったことを根本から理解しておくことと、効率のよい頭の使い方を体におぼえさせることです。前者は特に早いうちの方が楽なのは明らかでしょう。そして、一度理解してしまえばその後の学習は(すでに理解していることを支えにできるので)非常に楽なものになります。(時に数学など)。理解を後回しにすればするほど、波にのるためにせねばならないことが多くなってしまふので、どれだけ大変でも、高校生活のはじめのうちは必死で勉強すべきです。ただ、僕はプロフェッショナルではありませんし、文章での説明もなかなか難しいので、具体的な実践方法は先生方に聞いて下さい。

先生方はとにかく利用すべきです。北高の素晴らしい学習環境というのは田舎の熱心な公立高校の最大の利点です。都会の生徒に話すと皆うらやましがります。(大学に入ればわかります)。勉強全般に関しては以上です。頑張ってください。

さて、『理Ⅲなんてガリ勉しか入れない』と思われても嫌なので、僕のことについて少し書きたいと思います。実際、何かひとつでも頑張れば、大概何でも頑張れるものです。

- 音楽だらけの高校生活。洋楽アルバムだけで300枚以上所有。バンドもしました(3年次には弦が切れてしまい散々でしたが)。
- 冗談が実行されるほどストイック。友人とラジオ体操や学校の掃除などをしていました。
- 運動も大好き。暇つぶしに筋トレしたり、東大合格の直後に走りに行ったりしました。
- クラス活動や学校行事にもかなり参加しました。お祭り騒ぎも好きです。



等々、楽しい高校生活を過ごしました。振り返ってみると、楽しみを見つけたり、情趣を感じたりすることに無意識下で力を注いでいたように思えます。同じ時間を過ごすにしても、それに良い点を見つけられるようになれば大抵のことは上手くいくように思います。

以下、各教科に関して僕がアドバイスできることを書いておきます(主に東大向け?)。

- 数学 『なぜ、その手法が思いつくのか』等、解法ではなく考え方を理解すべき、根本理解。
- 国語 先生に習ってください(笑)。感覚だけで解くのは危険に思います。



- 英語 特に東大では実用性が非常に必要に思います。洋楽や国外のコメディなどに興味を持ったりして、英語を『身につける』ことが重要に思います。
- 物理 自分の頭で考えて解答を作れるようにすること。これも根本理解。
- 化学 パターンはかなり限られているので、直前の添削が非常に有効。それまでに基礎を。東大(時に理Ⅲ)について聞きたいこと等あれば僕にも聞いてみて下さい。入学後の手続きや時間割の作成等もかなり面倒なので、どんどん聞いて下さい。(特に理Ⅲは微妙に異なるので)。特に男子生徒の皆さん、是非とも理Ⅲに来て下さい。(鉄門アメフト部に誘いますので)。それでは、よい高校生活を。東大で待っています。

★最後の1か月だけ英作文の指導をしましたが、渡部くんはあれだけ難しい東大の問題を、サラッと中学生のような英語を使って書いてきました。見事でした。「難しい」ことを「簡単に」書けるのが本当の実力です。正直、理Ⅲ以外ならどこでも合格すると思っていましたが、合格発表の日に「合格しました」と挨拶に来た時には、快挙にビックリしました。(下線は八幡)

★「多義語」の勉強の仕方

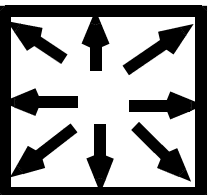


『Vintage』でtermという「多義語」が出てきました。①期間 ②学期 ③専門用語 ④条件 ⑤間柄 他にも境界、終端、言葉 などさまざまな意味があります。次の英文を読んでごらん下さい。

The teacher was on bad terms with the class. He measured every thing in terms of scores of mid-term and term examinations. And every matter was settled on favorable terms to him. (その教師は生徒との折りが悪かった。彼は何でも中間試験と期末試験の点数に換算して評価した。そして、いかなる事も彼に都合のいい条件で片付けられた。)

termというのは「枠で仕切られた範囲(限度)」「終わり」が原義です。時間的な枠ということで「期間」とか「学期」の意味が生じます。一般の言葉から枠で仕切られた「特別枠の用語」ということで「専門用語」の意味が出てきます。人と人のそれぞれの枠が重なると「間柄」の意味が生じます。それぞれの要望や方針が重なると「条件」の意味が出てきます。このように多くの意味がある単語は、必ずどこかでつながっているのです。▲termのイメージ

このことは『ライトハウス英和辞典』(研究社)の「語義の展開」という囲みにはっきりと示されています。これは島根県・津和野町出身の中尾啓介先生(電通大名誉教授)の労作です。ぜひ他の多義語を引いてみてください。意味の流れがよく分かるはずですよ。



こうした原義「限界」が理解できていると、芋づる式に他のtermを含んだ単語が理解できます。terminal(終着駅、終末の)は線路の終わりの駅、末期の、最後の、Terminator(暗殺者)は敵となる存在に終符を打つ人(アーノルド・シュワルツネッガーの映画で有名になりましたね)、terminate(終わらせる)は境界を定めることで終わりにする、determine(決定する)はしっかりと自分の限界を設けることから、exterminate(根絶する)は境界の外へ追い出すことから、理解できますね。つまり「限界」がカギを握っているのです。このことを『ライトハウス英和辞典』では「単語の記憶」(p.1451)として表にまとめています(千葉県池田和夫先生の仕事です)。「多義語」はこんなふう勉強するんですよ。

「限界」を原義と理解すると?

★八幡のサイト「チーム八ちゃん」はコチラ → <https://teamhacchan.wordpress.com/> 話題満載です

